女學生墮落の遠因

東京高等女學校長　棚橋絢子

近時、女子教育の盛なると共に、妙齡婦人の、やゝ才學ある者にして、却て敗德汚行の聞えある者尠からず。世は所謂女學生の墮落を絶叫するの聲益々高まらんとす。これ實に國家の爲め等閑に附すべきものにあらず、識者の慨嘆に堪へざる所なりとす。思ふに之が原因たるや、言ふまでもなく、我國文明の粹を放擲して、徒に西洋文明の花を玩ばんとするに因由せるものにして、已に維新後四十年の今日、智育を主として、德育を從とし空理を重じて實際を輕ずるの弊あるは、容易く矯正し難き所なり。妾は、世人の如く、徒に西洋の文物を云々するに及ばず、人倫道德の上に於ては、我國古來の德教を遵奉すれば充分なりと考ふ。我國古來の德教とは、即ち孔子教をいふ也、孔子の所謂忠信孝悌、仁義禮智、温恭貞淑は、人間道德の總ての場合を盡したる聖教なり。智育躰育は措いて論ぜず、德育の點に於ては小學、論語等の聖教にて充分なり。而して空理より實際を重せよ智識より道德を貴べ、學問より家事を目的とせよといはんと欲するものなり。

所謂女學生の墮落に就ては、種々なる原因の錯綜して、今一概に之を擧示すること難からん。されど妾は、その遠因、源泉といふべき有力なるものは、戀愛の二字なりと信ず。由來我國に於ては男女の別を正し、苟も此間に於て、禮を失するを以て、士女の恥辱なりとす。故に士君子は之を口にすることを恥ぢ、人情も以て優美に、國風も以て高尚なりき。然るに何者の愚か、青年男女の動もすれば陷り易からんとする痴情を、如何にも神聖にして清潔なるが如く、言ひならし、即ち戀愛の二字を案出せり。戀愛の二字たる、文字にわらはす時は、如何にも高尚にして、神聖なるが如きも、其實は野卑にして劣等なり。即ち卑陋にし

て苟も士女の口にすべからざるものを以て、如何にも清潔なるやに言ひ慣らせり。之を以て男女の所謂痴情を言ふもの、得たり賢しとして、正々堂々之を言ひ、之を行はんとす。妾は。固より戀愛の二字の、如何にして譯出したるや否や知らずと雖も、今の新聞雜誌又は著書の、戀愛の二字を妄用して、青年男女墮落の資に供しつゝあるを見て、轉た感慨に堪へざるなり。

古より青年の弊は、男女の性慾なり。されば、この時期に於て、最も此の弊を矯めんとすべき筈なるに、却てさはせずして、或は之を煽動せんとす、豈に無責任の至ならずや。青年男女寄れば即ち之を談ぜんとす、之が弱點に乘ぜんとするは、果して誰人なるや。故に妾は、世の囂々たる女學生墮落の主なる遠因として、戀愛の二字の流行に歸し、從つて戀愛の二字を世に流行せしめたる、世の新聞雜誌の責任を質し、尙今後世の先進者の戀愛の二字を固く使用せられざらんことを、偏に希望する者也。

經濟的人生觀

佐治實然氏は先頃某處の演說に於て人生を經濟的方面から見て之を左の八種に分類して話された。

それはこうである。

第一幼年時代　やりきれない程世話を燒かせる極めて、不經濟なる生活、

第二寄生的生活　玄關番、居候、老人の類で經濟上無價値のもの、

第三屍位の生活　屍位粗餐の輩を指すので所謂貴婦人の生活や親讓りの富豪連のことを云ふので、經濟上は三文の價値もない、

第四自然的不具者　是は云ふ迄もなく經濟上零である、

第五不正手段によりて生活するもの、是も經濟上の價値は無論マイナスである、

第六勞働に依りて生活する者　之れ國家を組織する要素でもあり、中堅でもあると云ふ者だ、生產上より云へば確かに優秀の位置を占有するの資格はあるが、彼等は教育とか、政治と